

## 春山連絡会開かれる

### 50人が参加、春山の気象、雪崩の話など

教育遭対部事務局・疋田吉継

恒例の春山連絡会が、シーズンを前にした4月21日午後8時から、大阪市福島区の労山事務所とリモート（Zoom）の併用で行われ、会員約50人が参加。春山の特徴的な気象と注意点のほか、春山に多い雪崩のパターンや注意点などについての話があった。参加者は有意義で参考になる話に真剣な表情で聞き入っていた。

### 春は低気圧が発達しやすいので注意

初めに H. C. teruru の高田和孝さんが、「春山の特徴的な気象と注意点」について話した。

春山の気象の特徴について、春は移動性高気圧と温帯低気圧が交互にやってきて天気の変り変わりが大きい。また、暖かい空気が南にやってくるので南北の温度差が大きくなり、低気圧が発達しやすい。日ごとの気温差が大きく、朝と昼（特に晴れた日）の気温差も大きい。日が長くなって紫外線が強くなる。

低気圧の東側では南風が吹いて気温が高くなり、雨が降りやすい。低気圧が通り過ぎると、その西側には寒気が入ってくるので、雪が降る場合がある、そのあとまた高気圧がやってくるというようなサイクルで回る。

また、日中の気温差も大きいため、晴れた日の山では、朝は雪が凍結し、滑落事故が多くなる。昼は雪が溶け、踏み抜きなどが多くなり、スノーブリッジや雪庇の崩落、雪崩などが起こりやすくなる。特に陽がよく当たる斜面などは雪質の変化が大きいため、地形などをよく考慮しながら行動してほしい。

風についても、低気圧や寒冷前線により天気が荒れる時は、最大風速が30mを超えるような強風が吹くこともある。そういう強い風がほしい1週間に1回ぐらいはやってくる可能性があると考えてもらいたい。

「500hpaの高層天気図を見て、上空にマイナス18～24度の寒気が入ってくると真冬のよ

うな大荒れの天気になります」と注意を呼び掛けた。

また、4月17日の立山・雄山の写真を例にとりながら、今年の春山の特徴も説明した。一の越から雄山の稜線はほぼ真っ黒になっていて、雪はほとんどない。今年はたくさん雪が降ったが、3月～4月と非常に暖かい日が続いたので、雪が溶けるのが早かった。だから、溜まる場所にはしっかり雪が溜まっているが、風がよく通るところなどは、例年より早く雪が溶けてなくなっていると分析した。

さらに、今年はクラックが多いという。雪が溜まっているところは、雨がしみ込んだりして雪が重くなり、地面の段差があったりすると雪がずれ、クラックができる。歩行時には注意するよう呼び掛けた。

「雨の後は、たいがい気温が低下して雪が降る。雨の後に気温が下がるという気象のサイクルになっているので、濡れた後の気温の低下に注意する必要がある。また、日ごとの気温の変化が大きいので、日ごとに雪質が変わる。雪崩や雪庇なども含め十分に注意してください」と力を込めた。

## 春の気象の特徴

- 冬から夏への季節の変わり目
- 移動性高気圧と温帯低気圧が交互にやってくる
- 低気圧が発達しやすい（爆弾低気圧、メイストーム）
- 日ごとの気温差が大きい
- 朝と昼の気温差が大きい（特に晴れた日）
- 紫外線が強い

## 春山の注意点（まとめ）

- Tシャツで行動できる日もあれば、冬装備が必要な日もある
- 雨（大雨）の日もあれば、雪（大雪）の日もある（1mmの降水≒雪の場合は1cmの積雪）
- 雨のあと気温が低下して雪が降る
- 日ごとに雪質が変化する
- 一日のうちで雪質が大きく変化する
- 雪崩、雪庇、クラックなど雪山一般の注意
- 「濡れ」に注意する（湿雪、雨、汗）
- 晴れた日の水分補給、紫外線対策

## 雪崩の体験談をもとに注意を呼び掛ける

続いて OWCC の中川和道さんが、「雪崩事故など春山特有の気象に起因する遭難事例」と題して話をした。

雪崩研究は実用にまで達したといわれているが、中川さんは「私はそうは思わない。私なりに幾つかのパターンをつかみつつあるので紹介し、批判を仰ぎたい」と切り出した。

まず 1 番目のパターンは、水だらけの重い雪。厚さ 15 cm ぐらいのずっしりと重いみぞれ雪が、斜面に不安定に被さった状態。例えて言うと体育のマットみたいに重いものが 10 枚ぐらい、畳をずらーっと並べたようになっていて、それが落ちてくる感じ。中川さんは 1982 年 3 月 21 日、白馬岳主稜ルートに登攀中にこの状態を経験した。ちょうどこの日、八ヶ岳の中岳沢で、神戸みなと労山の仲間 12 人が雪崩により亡くなるという悲しい事故があった。

2 番目は空気のように軽い新雪で、中川さんは 1983 年 3 月 20 日に鹿島槍北壁を登っていて経験。大量の新雪があって 30cm~50cm 積もった。快晴になり氷瀑を登っていたら、空気のカーテンが落ちてくるような感じで、また羽根布団 10 枚分を頭の上から浴びせられるような感じで、雪が落ちてきた。新雪爆風雪崩だ。軽い雪が速いスピードで落ちてきて、滝つぼで破裂。衝撃波が発生して、辺りは真っ白になった。

パターン 1 も 2 もどちらも、雨からちょっと冬型に変わって、そこから晴れるという天気経過をたどる。その時の快晴は必ずしも登山日和ではない。

第 3 のパターンは雪ブロック。軽自動車ぐらいのものが落ちてきた。2015 年ごろ、中川さんが黒部・丸山あたりを歩いていたら、頭の上に軽自動車級のブロックが落ちてきた。頭の上で砕け散って、後ろを通過していった。

さらに、今年 2022 年 4 月 1 日に八ヶ岳・赤岳の南峰リッジの斜面で起きた、雪崩による死傷事故を例に出し、「この事故は先頭のリーダーがピッケルを雪面にさしたことで雪崩を誘発した。雪崩は、ピッケルだけでなく、木の枝についた雪玉が風で飛ばされて落ちたことがきっかけで起きる場合もある。特に新雪直後 20~30cm 積もっているときには、注意が必要だ」と訴え、「文三郎登山道でも雪崩死亡事故が起きたという事実をぜひ記憶したい」と強調した。

また、気象による事故を防ぐためにも「ヤマテン」を購読することを強く勧めた。「ヤマテン以外にも、春山特有の雨や雪、みぞれの状況を調べるのには、『mountain-forecast.com』というサイトを検索するのが有効です。例えば雨が降った後、冷たい強風が吹いてくるとか、大雪が降るとかが予想でき、低体温症や雪崩への対応などを考えることができる。

さらに、山に行った時に気温のチェックをするとともに、自分の服装を写真に撮ることを

勧めます。この気温でこの服装だと寒くて耐えられなかった、逆に暑すぎた、とかを判断することができる」と呼び掛けた。

『mountain-forecast.com』

